



11 2022

発行所 大阪市中央区玉造2-24-22 カトリック大阪大司教区 広報委員会 郵便番号 540-0004 TEL (06) 6941-9700(代表) TEL (06) 6946-3223(直通) FAX (06) 6946-3224(直通) E-mail: jibo@osaka.catholic.jp 編集 広報委員会 発行人 前田万葉

本紙 「点訳版」「音訳」があります。〈無料〉 ※ご希望の場合は下記まで申込み 「点訳版(点字本)」 時報 ☎06-6946-3223(直通) ☎06-6946-3224(直通) 「音訳(テープ・デジ)」 山口さん ☎0798-34-4228

☆ 鈴蘭台教会設立40周年記念ミサ (2面) ☆ イエスにならう生き方を求めて (4面) ☆ 司牧者から若者たちにこの一冊 (2面) ☆ 養命膏外郎のちのちの特別許可を求めて (5面) ☆ キリストで読み解く「回勅兄弟の皆さん」 (3面) ☆ カラキズムの学び (5面) ☆ ラジオ「信仰の時間」和越 敏神父 ☆ 生きる一難民移住者 (5面) 広報委員会へのEメールアドレス=jibo@osaka.catholic.jp

『時報』原稿・資料等の締切は前々月末です。

# 病者・障がい者とともに歩むミサ 神の業が現れるために

9月23日(金・祝)、14時から大阪カテドラル聖マリア大聖堂で「病者・障がい者とともに歩むミサ」が酒井俊弘補佐司教の司式でささげられた。昨年に引き続き、今年もコロナ禍の影響により、ライブ配信をしながらの非公開ミサとなった。毎年、事前に小教区に配布される「ともに歩む祈り」を全員で祈ってからミサは始まった。

「病者・障がい者とともに歩むミサ」は当初「世界病者の日」「ルルドの聖母」の記念日である2月11日にささげられていた。しかし、病者・障がい者、また介助者が参加しやすいようにと、2018年からは秋の祝日に日時変更された。主司式の酒井俊弘司教はミサ説教の中で、当日読ま

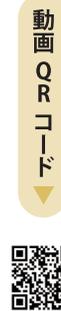


父神一朗隆の英司式共同と補佐司教酒井俊弘掲げる聖体

「人びとは目が生まれつき見えないことの原因、つまり過去の意味を質問しましたが、イエス様はそれには答えず、未来のこと、目が見えないことがこれから先どのようなことのために役立つのかを話されました。(……)イエス様が言われた『神の業がこの人に現れるため』というのには『神の業であるわたし、救い主キリストがこの人の人生に目に見える形で関わるため』という意味だということでした。そして、実際にそのようになったのです。救い主として、目が見えない方の目を見えるようにされました。」

共同祈願では、すべての障がい者、吃音者、肢体障がい者、

教区納骨者および死者 祈念ミサ 11月3日(木・祝)11時 司式:酒井俊弘補佐司教 大阪カテドラル聖マリア大聖堂



## 宝塚・仁川教会堅信式 主に仕える喜び

猛暑が続いた8月・9月には宝塚と仁川教会で堅信式が行われた。それぞれの式の様子と祝いと喜びの声を報告する。

### 宝塚教会

8月15日(日)9時半、宝塚教会で前田万葉大司教司式による聖母の被昇天ミサがおこなわれ、約160人の信徒が見守る中、7人の受聖者が堅信の秘跡を受けた。共同司式は主任司祭のグエン・シン・サック神父がとめた。

「私は、私たちが天の国の仕合わせをいただくことができるように、この信仰と平和をあかす宝塚教会であってほしい」と語りかけられた。大司教へのお礼として、ミサの最後には受聖者7人によって「God Bless you」の歌が歌われた。若者たちの美しい歌声が聖堂に響きわたった。

### 受聖者の声

「私は勉強会で『イエスは預言者であり、王であり、祭司である』と学んだことがとても印象に残りました。今日、私たちがこのキリストの3つの使命にあずかる者となりました。これからも私たちを導いてください。(中学2年生)

### 仁川教会

仁川教会では9月18日(日)9時から、受聖者17人の堅信式が行われた。主司式は酒井俊弘補佐司教、共同司式は主任司祭の和越敏神父、赤尾満治神父、永尾稔神父、中野里晃祐助祭(コンベンツアル聖フランシスコ修道会)。参加者は約140人。

### 受聖者の声

酒井司教は当日の聖書の御言葉(ルカ16・1〜13)から「清貧に生きる」とはどのようなことを意味しているかを主題として、「主に仕える」「富に仕える」「それぞれの意味を信じて日常の生活に即して分

「ベトナムで堅信を受けるはずでしたが、その時、運悪く体調を崩してチャンスを逸しました。晴れて、ここ日本で聖霊の恵みを受けられることができ、式の際には嬉しさに涙がこぼれてしまいました。(ベトナム人留学生)



# 鈴蘭台教会設立40周年記念ミサ



9月18日(日)、鈴蘭台教会において、前田万葉大司教・安曼祐神父司式で、小教区設立40周年記念ミサが行われた。本来は昨年が40周年だったが、実施間際に緊急事態宣言が出されて公開ミサが中止となり、1年延期されていた。ただ、名称はそのまま「40周年記念」とした。

記念ミサの前、最初に、昨年聖堂に置かれた当教会の守護聖人聖ヨセフと御子の像を前田万葉大司教に祝別していただいた。前田大司教はミサ説教の中で、「鈴蘭のともによせつと四十年」「鈴蘭のともによせつと永遠に」の句を披露されるとともに、「聖ヨセフにならって、父の心で、奉仕の心で、互いに仕

え合ってこの教会を良くし、また、一人ひとりが仕合わせになるように聖ヨセフの取次ぎを願います」と述べられた。また、「仕合はせのともによせつと教老日」の句を紹介され、「教皇フランシスコが言われるように、『年を取ったことを恥じるな、失望するな、自信を持ちなさい。年を取った

ことは誇りである』。若い人は高齢者の功績、経験を快く受け入れ、大切にしてください。このことは教会の中の信仰生活も全く同じです」と説かれた。説教後、当教会をこれまで支えてこられた敬老会信徒全員を特別に祝福してくださった。ミサ後、前田大司教と安神父を中心に、敬老会信徒全員で集合写真を撮影して行事を終えた。コロナ禍がまだ収束していないため、敬老会信徒が近況報告と歓談の場として楽しみにしていた祝賀会が中止となったことは残念だったが、この厳粛なミサによって一つの区切りをつけ、50周年・60周年へ向けての出発点とすることができた。



前田万葉大司教による敬老会信徒への祝福

## 和歌山地区大会

# 一人ひとりの役割

9月19日(月・祝)、和歌山紀北教会で3年ぶりの和歌山地区大会が行われた。テーマは「和歌山地区のビジョン(司牧・宣教)～ともに歩む(シノダリティ)参加・交わり・宣教～」。



和歌山地区の「準シノドス」としての集まりとなった今大会。台風14号襲来で悪天候にもかかわらず、ミサには58人、午後の大会には半数が残って参加した。11時からのミサでの説教で、主司式の酒井俊弘補佐司教はこう話された。「神様は私たち一人ひとりに役割を与えてくださる。例えば、薬指は力が入りにくい指。だからこそ薬を、紅を差すのにちょうど良い役割がある。世界的に司祭が減っている中、信徒が教会を支える今が、そのさまざまな役割を果たす時。そのため、ミサで行われるイエス様の生贖、贖い、十字架の救い―その恵みの力で、私たちを助けてくださ」と祈りましょう。

「各教会の発表では、4世帯、6世帯で支えられている教会があることを知ったり、高齢化が進み信徒数も少なくなる中、役割分担の工夫を考えたり、施設にあり方とより深いつながりを考えたり、『他の教会から来られた方がいると大きな喜びになる』などの感想を聞いて、今の教会の厳しさと向き合いながら、ともに歩もうとする思いを皆から感じた。『さまざまな事情で教会に来られない方々とながれば、主ととも歩む喜びを味わうことができます』という司教様の言葉に希望を感じた一日だった。」

### 参加者の感想

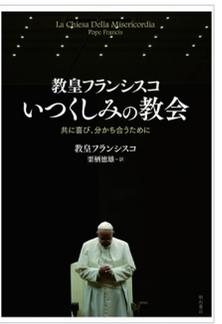
(文) 和歌山地区 宣教司牧評議会



司牧者がリレー形式で若者たちにぜひ読んでもらいたい書籍を紹介し、青年たちの読書感想文を掲載する連載。今回は、和越敏神父様(コンベンツアル聖フランシスコ修道会、仁川教会)が担当。

## 和越敏神父からこの一冊

『教皇フランシスコのくしみの教会―共に喜び、分かち合うために』(教皇フランシスコ著、栗栖徳雄訳、明石書店、2015年、税込2200円)



現代社会に生きている私たちは隣人と平和に暮らすために、「共通善」を前提としています。しかし共通善のために、共に寄り添うことに心を開いていないというとも言えるでしょう。キリストと出会い、キリストと共にいる私たち

は、ゆるしと和解、兄弟姉妹愛の必要性を認め、神のいつくしみの証人として共に喜び、広く分かち合うようにしなければなりません。ただ理解と同情を示し、道徳的に、物質的に苦しんでいる人びとに寄り添うだけでなく、他者の苦痛と困難を本当に自分自身のうちに深く受けとめ、最大の優しさで寛大さをもって他の兄弟姉妹と一致し、慰め、希望、勇気を分かち合い、神のいのちの道を共に歩まねばなりません。教皇フランシスコは、教会が、人の弱さと神の忍耐の間であり、教会を、大きなキリスト者の希望、「良い知らせ」を人が見つけることができる「いつくしみの家」として理解されるこ

とを願っています。この本をぜひ読んで、「いつくしみの家」にたどり着き、信仰に照らされ、生きている神の愛に満たされる自分を発見しましょう。



『祈りへの招き―気を落とさず、絶えず祈るために』(森一弘著、サンパウロ、2022年初版、税込1540円)

この厳しい社会に生きる中、人の醜さや残酷さを一身に受けて身も心もボロボ

この本は長年、司祭、司教として人びとの苦しみや悲しみに寄り添ってきた著者が、心からの共感と共に、疲れた現代人へ贈る祈りのための手引書です。どうぞよく読んで、人生を共に深めていきましょう。

次回は、中野里晃祐助祭(コンベンツアル聖フランシスコ修道会、仁川教会司牧実習)です。

### 主催者の感想

「コロナ禍や高齢化に伴い、参加者も減少している。今回は6月4日に献堂式が行われた新聖堂の見学も視野にいれていたが、台風14号の影響をともに



酒井司教による地区大会でのあいさつ ミサ説教の動画 QR コード



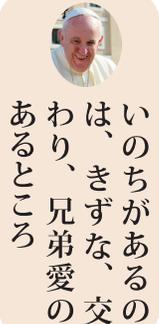
キーワードで読み解く  
**回勅 兄弟の皆さん**  
 連載第3回〈全7回〉  
 酒井俊弘補佐司教

第3章は「開かれた世界を描き、生み出す」というタイトル。私たちは自らに問いかけなければなりません。「私は開かれている世界だろうか」と。



『回勅 兄弟の皆さん』（教皇フランシスコ、カトリック中央協議会、2021年、税込1760円）

**第3章 「開かれた世界を描き、生み出す」**



**87** いのちがあるのは、きずな、交わり、兄弟愛のあるところ。真のつながりと、実直な結びつきの上にあるのなら、いのちは死よりも強いのです。それとは逆に、自分は自分のみ帰属し、孤島のように生きているのだとうぬぼれるなら、そこにいのちはありません。

きずな、交わり、兄弟愛があるところがこの世で幸せな場所であり、天国の特徴でもあります。反対に、

きずな、交わり、兄弟愛がないところはこの世の地獄であり、つまるところ地獄とはきずなも交わりも兄弟愛もない孤独な場所なので

**人種差別というウイルス・個人主義というウイルス**

**97** この社会で苦しみ、見捨てられ、ないがしろにされる兄弟姉妹はだれしも、同じ国に生まれたとしても、実存的な意味での異邦人です。……人種差別は簡単に変化するウイルスであり、消滅せずに隠れて、つねに待ち伏せているのです。

**105** 個人主義は、駆逐するのが非常に難しいウイルスです。だますのです。個々の野心と安心を積み上げれば共通善を築けるといわんばかりに、すべては自分の野心に任せるところから始まるのだと、わたしたちに信じ込ませるのです。

この3年間、ウイルスが目に見えない強力な敵であることを私たちが身に染みて知りましたが、心に住み着いているウイルスこそ恐

れなければなりません。「あの人は〇〇人だから」「あの人はああいう人だから」と簡単に差別してしまうウイルス、個人を最優先するという個人主義のウイルスは、私たちの心の中に隠れており、何かのきっかけで発症します。そうならないためには、兄弟愛という特效薬が繰り返し必要です。

**存分に水があっても、それを大事にする**

**117** もし自分には存分に水があっても人類をおもんばかってそれを大事にするというならば、それは、自身を、また自分が属する集団を、超えて行ける倫理的レベルに到達しているからなのです。これは実に人間らしいことです。

災害にあつて断水が続くと、水がどれほど生活に欠かせないかを思い知ります。喉元過ぎれば熱さを忘れる……です。存分に水がある時でも水に事欠く兄弟のことを考えて大事にすることが、「地球という、ともに暮らす家を大切にす」(同)ことなのです。

自然と、他者と調和して生きていくための取り組みを進めるべきだと思います。

聖パウロがローマの信徒への手紙 12・15で「喜ぶ人々と共に喜び、泣く人々と共に泣きなさい」と教えてくださったように、私たちは心を新たに、神を賛美しながら、感謝しながら、現実的に被造物の苦い叫びを聞いて、共に泣きましょう。そうしなければ、私たちと未来の世代はこれからも被造物のいのちと希望の甘美な歌を耳にして共に喜ぶことが難しくなってしまうでしょう。

最後に、回心の恵みを願い求めながら、詩編を使って一緒に祈りましょう。「主よ、あなたの息を送ってください。地の面を新たにしてください」(詩編 104・30 参照)。



毎週日曜日 5:50 ~ 6:00AM 放送  
 11月担当：中島貴幸神父  
 ABCラジオ(朝日放送) AM1008/FM93.3  
 スマホアプリのradikoでも聴けます。



ラジオ  
**信仰の時間**

**被造物の声に耳を傾けよう**

〈9月11日放送分〉

和越敏神父  
 (コンベンツアル聖フランシスコ修道会、仁川教会)

今日も「被造物の季節(9月1日~10月4日)」を多くの兄弟姉妹と一緒に過ごしてまいりましょう。先週の放送で申し上げたように、被造物を大切にするために、私たち一人ひとり、個人、団体、企業、国家などに限定された自己中心的な考え、生き方を捨て、あらゆるものと共に生きようという意識を多くの兄弟姉妹とともに新たにしていきたいと思います。

今年2022年の平和旬間(8月6日~15日)ですが、大阪教区全体のテーマは「A Road to Peace: Listening to One Another (互いに耳を傾けて平和への道を)」でした。平和を築き、平和のうちに生きるために、互いに耳を傾け合うことが強調されました。被造物を大切に、すべてのいのちを守るためには被造物からの声に耳を傾けることも不可欠です。

教皇フランシスコは、これまでアシジの聖フランシスコの精神に従って、被造物とともに生き、ともに大切にしていこう姿勢を示し、今年の「被造物の季節」のために、「被造物の声に耳を傾けよう」というテーマを選びました。教皇フランシスコは「被造物の声に耳を傾けるならば、私たちの創造主である神をたたえる甘美な歌を聞く一方で、人間のひどい

仕打ちを嘆く苦い叫びをも聞かだらう」と述べています。

私たちは、神を賛美して歌う無数の被造物からなる「宇宙の壮大な合唱」を大いに楽しみましょう。アシジの聖フランシスコに声を合わせて歌いましょう。「賛美されますように、私の主よ、あなたのお造りになったあらゆるものによって」(兄弟なる太陽の賛歌)。

この甘美な歌声には、苦い叫びが重なっています。被造物が上げる苦い叫びは母なる大地の叫びであり、生態系から消えゆく多くの生物の叫び、また、気候危機の影響も強く受けている貧しい人びとの叫び、そして地球のエコ・システムの崩壊を食い止めるために可能な限りの努力を望む若者たちの叫びでもあります。

私たちは「話せず、語れず、声が届かない」被造物や貧しい人びとの叫びに耳を傾けるように招かれています。では、私たち一人ひとりが住む地域では、どんな声が聞こえますか。他人の圧力、別の勢力によって聞こえないよう押し潰されてしまっている声はないでしょうか。

これらの叫びを聞き知る私たちは、どうすればいいのでしょうか。何よりもまず、深く反省し、被造物にダメージを与える生活様式や習慣を変えなくてはなりません。もちろん、個人的な回心だけでなく、共同体的な回心が必要です。この期間、特に「私たち自身の中での調和、他者との調和、自然やいのちある他の被造物たちとの調和、そして神との調和といったさまざまなレベルで、エコロジカルな平衡を回復」していくことができるよう、祈り、身近で実行できる小さな取り組みをしなければなりません。

キリスト者の私たちは社会問題としての環境への取り組みにとどまらず、個人として、共同体として、霊的にも、社会的にも、神と、

### イエスにならう生き方を求めて

悩みを持つ人々の痛みに寄り添い、  
その悩みを少しでも分かち合うことのできる  
教会共同体をめざして

日本カトリック司教団著「いのちへのまなざし」  
増補新版より

## 空の鳥を見よ

カトリック六甲教会 主任司祭  
英隆一朗



世界中で異常気象が頻発し、疫病が流行している。現在の最大の課題はエコロジイである。教皇フランシスコが回勅『ラウダー・シ』でエコロジイの大切さを強調され、自然環境を守るように訴えられているのは、当然のことと思われる。そのような切迫している状況にありながら、エコロジイの取り組みは遅々として進まない印象もある。身近な問題でありながら、あまりに巨大な問題だからだ。私たちの便利な生活を諦めない限り、真の解決方法を見いだせないように思う。

自分のできる小さなことから始めようと考え、知り合いの紹介で、野鳥の保護団体の会員になった。そこから、「空の鳥をよく見なさい」(マタイ6・26)という聖句が身にしみるようになった。

実際に、鳥を眺めるようになった。まわりには雀が多いが、時々他の野鳥が庭の木に止まっていることも。鳥の姿を見て、その声を聞くだけで、どれほど心がいやされるか。鳥をじっと見ていると、さまざま悩みに囚われている自分



の心がほどこけてくるというか、心の執着と悩みが落ちてしまつて、素の心になつてくるのが分かる。エコロジイの第一歩は心の平安だと思ふ。

もちろん会報を読んだり、講演会を聞いたりすると、野鳥をめぐる環境がますます厳しくなっていることがわかる。渡り鳥は国境など関係なく、グローバルに世界を飛び回っていて、夏に行くところから、冬に行くところまで密接につながっている。どこかで環境破壊があると、それが全体に大きく響いてくる。プラスチック問題も深刻で、野鳥の胃袋がプラスチックでいっぱいになって死んでいる例には本当に心が痛む。結局のところ、一羽の鳥を見つめていると、グローバルな問題が切実に迫ってくる。

アシジの聖フランシスコは鳥と対話したという。もし私が鳥の声を聞けるならば、彼らの単純さや喜びだけでなく、現実の叫びと痛みを聞いてみたい。彼らの声にならない声を聞こうとするとき、統合的エコロジイの一步が始まるのではないか。野鳥が心から神を賛美できる環境を願いながら、自然との共生を目指していきたい。

## あれから1年経ちました



## 正義と平和大阪大会からはじまったネットワーク

### 第15分科会「いま 地層処分をしないといけない8つの理由」

札幌教区正義と平和協議会 浅井 繁

日本カトリック正義と平和協議会 全国集会 大阪大会から1年が経ちました。その後も参加者と交わりを深め、取り組みを続けているグループ、また大会がきっかけとなってネットワークが立ち上がったグループがあります。今回はそのの一つをご紹介します。

札幌教区正義と平和協議会(以下、札幌正平協)は、昨年の正義と平和大阪大会で、「いま 地層処分をしないといけない8つの理由」をテーマとして第15分科会を担当させていただきました。分科会開催を申し入れた当時、北海道後志管内の寿都町と神恵内村では高レベル放射性廃棄物の地層処分に向けた文献調査が開始されており、分科会ではその地層処分の危険性を学習することを目的としました。

分科会の準備も大詰めを迎えていた11月5日、日本正平協を経由して「原子力行政を問う直す宗教者の会(以下、宗教者の会)」から「核のゴミ」問題に関し、宗教者として何が出来るか意見交換をしたいとお誘いがありました。

「宗教者の会」は1992年の「もんじゅ」初臨界を前に結成され、原発廃止に向けて、裁判を含めた各種活動を行っていますが、2020年9月には最終処分場に特化したグループを立ち上げ、核ゴミ地層処分に反対する活動を始めたところでした。

会合は、基本的にリモートで開かれ、「札幌正平協」を含めたこの活動体を「核ゴミの地層処分に反対する宗教者ネットワーク」と名付けるとともに、当面の目標として、核ゴミ最終処

分場を認めていない現在の北海道知事の姿勢に敬意を表明し、その姿を最後まで貫かれることを要望する申入書を知事宛に提出することとしました。申入書の提出に先立ち、北海道内の各地で学習会を実施しました。小出裕章さん、村上達也さん、澤井正子さんを講師にお招きして、旭川・帯広、函館、苫小牧、黒松内町(寿都町の隣町)、札幌市で学習会を開催、市民活動である「泊原発を再稼働させない・核ゴミを持ち込ませない北海道連絡会」による署名とも連携した活動が出来ました。

知事への申入書には、宗教関係以外で19の賛同団体と8名の個人賛同をいただき、2022年7月11日、北海道知事宛に申入書を提出しました。

核ゴミ地層処分の具体的な危険性については「シナピスニュース11月号」でお知らせしますので、ぜひご覧ください。

#### ●社会活動センター・シナピス

☎ : 06-6942-1784

E-mail : sinapis@osaka.catholic.jp



知事宛申入書を読み上げて担当課の課長補佐に提出

### 北海道における特定放射性廃棄物に関する条例 抜粋

私たちは、健康で文化的な生活を営むため、現在と将来の世代が共有する限りある環境を、将来に引き継ぐ責務を有しており、こうした状況の下では、特定放射性廃棄物の持込みは慎重に対処すべきであり、受け入れ難いことを宣言する。

学習会

「外国ルーツの子どもの在留特別許可を求めて」報告

9月23日(金・祝)14時から、サクラファミリア(大阪梅田教会)聖堂において、標記の学習会を行なった。参加者は約60人。

日本で生まれ育ちながら、も在留資格がないMさんの話を今年7月にお聴きし、彼らの基本的な人権が奪われ



子どもの権利を訴える空野佳弘弁護士

「学習会」を企画した。一家に寄り添ってこられた、教区社会活動センター・シナピスのビスカルド篤子さんが支援状況を話され、姉のMさん(大学3年生)、弟のSさん(大学1年生)が今の状況と将来の希望を話された。

で保障された子どもの権利を、日本は守らなければならぬ。世論が黙っていては入国管理法の改悪さえ実施される」と多くの人の力が必要だと話された。

「カテキズムの学び」

第37回「偽証してはならない」(後半)

9月22日に十戒の第8の掟である「偽証してはならない」の後半を学びました。サクラファミリアでの講座の様子は上のQRコードから視聴できます。

「偽証してはならない」つまり「嘘をついてはならない」という掟は普遍なものです。個々のケースにおいては他の条件も関わってきます。

具体的な状況において、真実を求める人にそれを明かすのが適当であるか否かを兄弟愛のおきてに基づいて判断しなければなりません。(2488番)

他人の善益や安全、プライバシーの尊重、共通善などのためであれば、知られてはならないことを伝えなかったり控え目に話したりしても差し支えありません。(2489番)

たとえば、街頭インタビューで「おいつつですか?」と尋ねられた際に、「忘れました」と返答しても嘘にはなりません。5歳ぐらいであればサバを読んだ年齢を言ってもいいかもしれません……。けれども、病院の問診票には年齢を正確に書かなければなりません。

また、カテキズムは「真実を口外しない」ことの例として、絶対的な守秘義務がある「ゆるしの秘跡の秘密」と、相対的な守秘義務がある「職業上の秘密・口外しないという条件でなされた内輪話の秘密」を挙げています。

今回の箇所では、社会的コミュニケーション・メディアにおける真実についても言及されていました。

ジャーナリストには、情報を流す際には真実に仕え、愛を損なわないという義務があります。(2497番)

そして、昨今話題になっているいわゆるフェイクニュースについての言及もあります。

メディアを用いて世論を操作するために偽りの情報を流すことは、どんな理由があってもゆるされません。(2498番)

最後に、「真理と美と宗教芸術」という項目がありました。

「神にかたどられて造られた」(創世記1:26参照)人間は、創造主である神とのかかわりという真理を芸術作品の美しさを通して表現します。(2501番)

「わたしは真理である」(ヨハネ14:6)と言われたキリストに倣う生き方をしたいものです。(文 酒井俊弘補佐司教)

訃報



フリオ・富田末彦神父(オプス・デイ属人区)は、10月2日、骨髄異形成症候群のため帰天。85歳。メキシコ、ソノラ出身。

1968年、司祭叙階。70年来日。以後、オプス・デイの本部を拠点に、大阪教区、および、日本各地のオプス・デイの司牧に従事。趣味のテニスは福音宣教の機会となっていた。療養中も多くの人びとの見舞いを、笑顔とユーモアで受け、最後まで司牧者の心を失わなかった。オプス・デイ創立記念日の10月2日未明に主の御許に召された。

「生かす」難民移住者

悩む海外への寄付

教会法では、寄付金は意向に沿って使うよう定められています。シナピスも寄付の意向が不明な時には寄付者に連絡を取って確かめるように努めます。

私は一度「イラン国境の難民に援助活動をするアリさん」をこのコラムで紹介したことがあり(本紙7月号参照)、何人もの方からご寄付を頂きました。



アリさんが送ってきた動画の一場面

私を見せましたが「動画なんていくらでも加工できます。こんな嘘つきが沢山いて善

老人にばかり食べ物や薬を配っている。私たちが家族だつて空腹なのに。日本人から預かった大事なお金だからと言って食べ物や薬をたくさん買って配るから母と

はそのために送ってくれた。妻はそれが分からず怒鳴る。頭が変になる。だから出た」「篤子さん、今はね、スマホあるから嘘つけない。日本人のお金で食べ物と薬あげてる動画、もっと送る。お金最後までそれに使う。アリさんのためにご寄付を下さった皆様へ。現在送金を見合せていますので一度アリさんとお話をする機会を持ちませんか。彼は日本語が話せます。彼と直接話していただいて、ご寄付を返金するか、イランへ送金するかご判断いただければ幸いです。ご連絡をお待ちしています。

情を知る人。アリさんの書類を確認してもらいました。すると、ずさんで虚偽と思われる物が混じっていると指摘されたので私は送金を止め、アリさんに停止の理由を説明しました。アリさんは納得がいかず「篤子さん、動画

意の日本人を騙して同国人として恥ずかしい」と言われ、私はイランへの援助を一旦打ち切りました。ある日、アリさんの娘から私に連絡がありました。「父が家族を置いて出て行った」「父は外の子どもや

喧嘩になって出て行った。私はアリさんに電話をしました。「私の妻と子どもたちはまだ元気。外では助ける人が誰もいなくて死にそうなのでいっぱい。日本人

は、ご寄付を返金するか、イランへ送金するかご判断いただければ幸いです。ご連絡をお待ちしています。(文 シナピス事務局 ビスカルド篤子)

大阪教区のカトリック病院 ガラシア病院

特徴的な医療 ホスピス(緩和ケア) リハビリ・神経内科 肝臓内科・循環器内科

医療法人ガラシア会 理事長 前田万葉 大司教 チャプレン 松本信愛 神父

〒562-8567 箕面市粟生間谷西 6-14-1 ☎072-729-2345



9月21日(水)、当病院の記念ホールで開いた介護老人保健施設のお誕生日会。高槻教会の堀江静三さんにピアノを演奏していただきました! 題して「老体に鞭打ちピアノ演奏」。楽しいひと時となりました。当日ライブ配信した演奏はYouTubeでご覧になれます。【YouTube内「ニューライフガラシア」で検索】

# 来、見なさい



ヨハネ 1・46

※詳細は各主催者へ直接お問い合わせください。

## 教区委員会主催

### 信仰養成連続講座◆カテキズムの第3編:使徒職

日時 11・12月はお休み  
講師 酒井俊弘補佐司教  
場所 サクラ ファミリア /YouTube配信あり  
問 ☎06-6941-9700  
主催 使徒職養成委員会

## サクラ ファミリア主催

### 聞かせてください 神さまと出会った時のこと~エマオへの道で~◆大阪教区で働く司祭・修道者ご自身の体験をきく

日時 12/5(月)19:00~20:30(夜の部)・12/6(火)10:30~12:00(昼の部)※両日とも同じ内容となります  
おはなし 高島政行神父

### コレーン神父と学ぶ聖書◆ルカ福音書をとともに読む~C年ルカ福音書への導入~

日時 第2(月)13:30~15:00(4~12月開講)  
参加費 ¥500

### 「新生の明日を求めて」読書会◆大阪教区のシノダリティ(ともに歩む)の原点を

### 確認しよう

日時 毎週(月)(第2は休み)14:00~15:30  
担当 松浦信行神父

### 聖書通読会◆聖書のダイナミックな流れが感じられます

日時 毎週(木)10:00~11:30  
担当 松浦信行神父

### 「YOUCAT(青年向けカテキズム)」勉強会◆老いも若きも、キリスト教を理解しよう

日時 毎週(金)19:00~20:00  
担当 松浦信行神父

### 祈りのよる◆灯りをかこみともに祈る静かな時間を

日時 毎月17日 19:00~19:30

問 サクラ ファミリア ☎06-6225-8871  
✉f.sacra@osaka.catholic.jp

## 結婚準備講座

### 夙川教会

日時 11/6(日)~11/27(日)4回 14:00~15:30  
参加費 ¥5,000(2名)  
問 ☎0798-22-1649

### 六甲教会

日時 次回2023年2/4(土)~3/25(土)

8回 17:30~19:00

参加費 ¥10,000(2名)  
問 ☎078-851-2846  
※事前要問合せ(年2回)

## 黙想会

### 宝塚黙想の家

#### ◆日帰り黙想会

日時 11/8(火)・11/24(木)・11/25(金)10:00~15:30  
指導 稲葉善章神父(11/8) 染野治雄神父(11/24) 山内十束神父(11/25)  
参加費 ¥3,500

#### ◆一泊黙想会

日時 11/8(火)17:00~11/9(水)15:30  
指導 稲葉善章神父  
参加費 ¥9,000

#### ◆週末黙想会

日時 11/25(金)17:00~11/26(土)15:30  
指導 山内十束神父  
参加費 ¥9,000

#### ◆聖地エルサレムを学ぶ

日時 第3(木)10:00~12:00  
指導 笹田六合豊修道士  
参加費 ¥1,000

#### ◆ギリシャ語で味わう聖書のことば

日時 第1(火)10:00~12:00  
指導 稲葉善章神父

#### ◆カトリック教会のカテキズム

日時 第2・4(水)10:00~12:00  
指導 染野治雄神父  
参加費 ¥1,000

#### ◆祈りを深めるための聖書の基本

日時 第3(水)10:00~12:00

指導 山内十束神父  
参加費 ¥1,000

問 宝塚黙想の家 ☎0797-84-3111

## 講座・研修会

### 講座 本田哲郎神父◆小さくされた人々のための福音

日時 毎月第3(金)10:00  
場所 神戸学生青年センター  
参加費 ¥1,000  
問 岩村 ☎070-5045-7127  
主催 神戸国際支縁機構

## 集い

### シナピス主催◆オンライン祈りの集い~世界平和のために祈ろう~

日時 毎月第2木曜日 20:30から30分  
テーマ 死者のために祈る  
参加方法 Zoom (100名まで参加可能)

Zoomミーティング ID:761 071 2034  
バコード:123456

主催 社会活動センター・シナピス  
問 ☎06-6942-1784 ☎06-6920-2203  
✉sinapis@osaka.catholic.jp  
HP https://sinapis.osaka.catholic.jp/

### 大阪JOC◆働き方や生き方について現状から共に考える15~35歳までの若者の集い

日時 第4(土)14:00~16:00  
場所 大阪YCWセンター(またはZoom)  
問 レネ神父・水元 ☎072-232-8063

✉osakaycw@gmail.com  
HP http://www.ycw.jp/

### 要約筆記グループ“エッファタ!”練習会◆教区ミサに要約筆記(文字表示)をつけるボランティア

対象 要約筆記に関心のある方。フリーソフト captiOnlineを使いパソコンまたはスマホで練習します。  
日時 毎月第2(水)10:00~12:00  
場所 教区本部事務局 1階会議室  
問 障がい者委員会 ✉dis@osaka.catholic.jp  
主催 要約筆記グループ “エッファタ!”

### 精神・発達症(障害)者自励グループ◆オリーブの集い

日時 第3(日)14:00~16:00  
場所 姫里集会所  
申込 吉川まで  
問 ☎078-583-2525

### 力障連大阪フレンドリー◆点字部の勉強会

対象 パソコン点訳に関心のある方、視覚障がい者の情報共有に関心のある方  
日時 奇数月・第2(火)13:30~15:00  
場所 姫里集会所  
申込 笠松まで  
問 ☎090-5661-4324 ☎072-722-0271  
✉kasamatsu-yukisan@iris.eonet.ne.jp

### マザー・テレサ共労者の集い

日時 第1(土)14:00  
場所 大阪梅田教会  
問 高塚 ☎06-6921-0693  
姫路・加古川・六甲教会はコロナ禍が収まり次第再開

## 案内・報告

### 司牧者人事

〔大阪教区事務局・委員会等担当一覽 追加〕  
▽シナピスセンター長 松浦謙

▽外国語司牧 スペイン語担当 へスス・マリア・モラレス神父  
※10月6日発表

### 主日ミサ時間変更

〔香里教会〕

▽7時  
▽9時半(地区割り当て制)  
▽11時(第3日曜日に子どものミサ)  
※10月より開始

ひとりで悩まないで  
~私たちに聴かせてください~  
カトリック大阪大司教区  
セクシュアル・ハラスメント  
相談窓口  
電話番号:06-6941-9718  
相談窓口受付時間  
月・火・金曜日(祝日を除く)  
午前10時~午後4時  
あなたの悩みを親身になって受け止めます。  
秘密は守られます。

## 司教予定

- ・6日(日) 岸和田地区りんくうブロック堅信式(泉野野教会)(+S)
- ・8~14日(火~月) バチカン、広報の部署総会(+M)
- ・14日(月) ガラシア合同慰霊祭(+S)
- ・13日(日) 豊中教会堅信式(+S)
- ・17~29日(木~火) 聖地イスラエル巡礼(+S)
- ・20日(日) 明石教会堅信式(+M)
- ・25日(金) 城星学園創立70周年ミサ(+M)  
+M=前田万葉大司教 +S=酒井俊弘補佐司教

## 行事等日程

11月		13日	日	貧しい人々のための世界祈願日
1	火	諸聖人		
2	水	10時 顧問会 13時半 第196回 司祭評議会	20日	王であるキリスト 世界青年の日 聖書週間(~27日迄)
3	木	11時 教区納骨者および死者 祈念ミサ(カテドラル)	30日	10時半 教区月修
				12月
9	水	ラテラン教会の献堂	1日	木 [常任司教委員会]
10	木	[常任司教委員会] 聖レオ1世教皇教会博士 池長潤名譽大司教霊名	4日	日 宣教地召命促進の日(献金)
			6日	火 [臨時司教総会]

## 編集後記

残暑の厳しいある日、冷蔵庫が息絶えました。復活しないかと試みましたが、イエス様ではないので、ラザロのように蘇生させることはできませんでした。▼家電に依存している生活です。冷蔵庫がなくは、生活できません。新規購入を断りました。ネットで見つけたものが、型落ちで、展示品のみということと半額になっていた。▼新しい冷蔵庫、なんと! いやべるのです。あいさつ、天気予報、近隣の特売情報まで教えてくれます。いま「冷蔵庫」との会話を楽しんでます。このままでは、人と話すより家電製品と話す時間の方が長くなりそうです。私としては、もっと神に依存して、神と気楽に話したいと思うのですが。

(広報委員会 川柳裕明)